

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第45週[11月7日～11月13日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：流行性耳下腺炎

- ・ 例年よりも気温が高く過ごし易い日が続いているが、急な気温の変化に注意が必要である。
- ・ **感染性胃腸炎**は高知市と中央東を除く地域で増加し、総数はさらに増加した。
- ・ **流行性耳下腺炎(幡多：注意報→注意報, 高知市：注意報)**は高知市と幡多で増加し、総数は引き続き増加し注意報値を超した。
- ・ **手足口病(安芸：注意報→注意報)**は安芸と幡多で増加したが、その他の地域で減少し、総数は横ばいであった。
- ・ **水痘**は中央東と高幡で横ばい、その他の地域で減少し、総数は減少した。
- ・ **伝染性紅斑(幡多：警報→注意報, 中央西：注意報)**は高知市、中央東、中央西でやや増加したが、幡多と高幡では大幅に減少したため総数は減少した。

上位疾患構成図



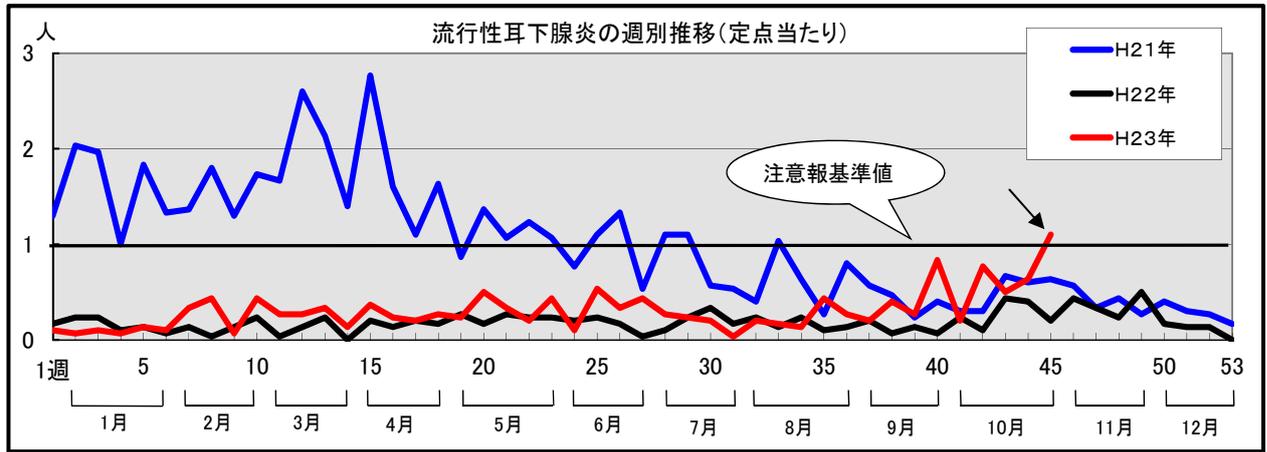
地域別感染症注意報・警報発生状況

第45報 (2011年11月7日～2011年11月13日)



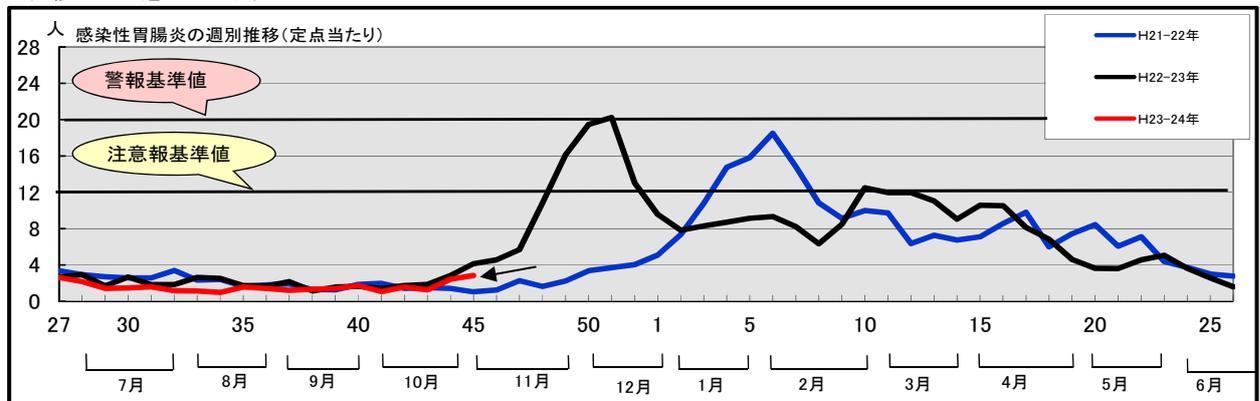
流行性耳下腺炎：今週 1.10 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

2009年の第34週以降は注意報値を下回る低いレベルで推移していた。しかし、今年の第40週に急増し、その後大きく増減しながらも増加傾向となり、今週は注意報値を超した。地域毎にみると幡多と高知市で注意報値を超しているが、特に幡多では警報値に迫る報告数となっている。



感染性胃腸炎：今週 2.83 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

前週大幅に増加し、今週も引き続き増加した。例年11月に入ると報告数が急増するため、今後の推移に注意が必要である。



検査情報

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
45	百日咳	7歳 女	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
45	百日咳	6歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
45	マイコプラズマ肺炎	5歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
45	マイコプラズマ肺炎	13歳 男	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
45	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10歳 男	中央東	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264

前週以前に搬入され検出された病原体

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
33	手足口病	1歳 男	高知市	Coxsackievirus A6
32	ヘルパンギーナ	1歳 女	中央東	Coxsackievirus A6
32	手足口病	1歳 男	中央東	Coxsackievirus A6
33	手足口病	3歳 男	高知市	Rhinovirus
40	手足口病	3歳 女	中央東	Rhinovirus

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 1例 (83歳男) 《中央西》 (今年171例)

4類感染症：日本紅斑熱 4例 (70代女:2例, 80代女, 60代男) 《安芸》 (今年15例)

○ 定点からの地域ホット情報

中央西

《石黒小児科》：ヘルペス性歯肉炎 1例 (1歳男)

《くぼたこどもクリニック》：带状疱疹 1例 (12歳女)

《日高クリニック》：マイコプラズマ気管支炎 2例 (12歳男, 28歳女)

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 4例 (4～7歳男女)

全国情報第43週 (10/24~10/30) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核347例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢8例、腸管出血性大腸菌感染症37例（有症者24例、うちHUS なし）、
パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎2例、オウム病1例、つつが虫病8例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、日本
脳炎1例、マラリア3例、レジオネラ症14例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎（B型）2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、後天性免疫
不全症候群20例（AIDS 4例、無症候14例、その他2例）、梅毒19例、破傷風1例、バンコマイシン
耐性腸球菌感染症4例、麻しん2例

報告遅れ：コレラ1例、日本紅斑熱4例、レジオネラ症1例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染
症2例

◆マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ (*Mycoplasma pneumoniae*) を病原体とする呼吸器感染症である。感染経路としては、飛沫感染による経気道感染や、接触感染によって伝播すると言われている。感染には濃厚接触が必要と考えられており、保育施設、幼稚園、学校などの閉鎖施設内や家庭などでの感染伝播はみられるが、短時間の曝露による感染拡大の可能性はそれほど高くはない。潜伏期間は2~3週間とインフルエンザやRSウイルス感染症等の他の小児を中心に大きく流行する呼吸器疾患と比べて長く、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などである。本症の特徴的な症状である咳は、初発症状発現後3~5日より始まることが多く、乾性の咳が経過に従って徐々に増強し、解熱後も長期にわたって（3~4週間）持続する。治療は抗菌薬投与による原因療法が基本であるが、*Mycoplasma pneumoniae* は細胞壁を持たないために、β-ラクタム系抗菌薬には感受性はない。これまでは蛋白合成阻害薬であるマクロライド系（エリスロマイシン、クラリスロマイシン等）が第1選択薬とされてきたが、以前よりマクロライド系抗菌薬に耐性を有する耐性株が存在することが明らかとなっており、近年その耐性株の割合が増加しつつあるとの指摘もあり、注意が必要である。

診断には特異的IgM抗体迅速検出キットが開発され、臨床現場において活用されてきているが、幼児、学童の初回感染例では発病1週間以内では陰性を示すことが多く、また単一血清で高い抗体価であっても感染の既往を示している可能性を否定できない。最近では、PCR法やLAMP法による遺伝子検出が次第に多くの検査機関で実施されるようになってきている。

マイコプラズマ肺炎は、かつては、他の病原体によるものも含まれる「異型肺炎」として発生動向調査が実施されていたが、1999年4月の感染症法改正により、現在の病原体診断に基づく調査となった。現在、マイコプラズマ肺炎のサーベイランスは全国約500カ所の基幹定点医療機関（2次医療圏域毎に1カ所以上設定された、300人以上収容する施設を有する病院）からの報告に基づいている。

2011年のマイコプラズマ肺炎の基幹定点からの定点当たり報告数は、第25週以降は1999年の調査開始以降の同時期と比較して最も多い状態が継続している。特に第40週以降は定点当たり報告数が1.00を超えた状態が継続している。第43週の定点当たり報告数は前週（定点当たり報告数1.13）よりも増加し、1.20（報告数552）であった。都道府県別では沖縄県（3.43）、岐阜県（3.20）、岡山県（3.20）、大阪府（3.00）、埼玉県（2.89）、青森県（2.50）、福島県（2.43）、宮城県（2.42）の順となっており、23都道府県で前週よりも報告数の増加が認められた。

2011年第1~43週の定点当たり累積報告数は25.03（累積報告数11,539）であり、既に2000年以降の年間の最多報告数（2010年、定点当たり累積報告数22.50）を上回っている。年齢群別では0~4歳36.6%、5~9歳29.6%、10~14歳15.0%、20~39歳7.7%、60歳以上4.9%の順となっている。2007年以降は成人の報告割合がやや増加して全報告数の20%近くを占めるようになってきているが、一方で14歳以下が80%前後を占めており、マイコプラズマ肺炎の報告の中心が小児であることには変わりはない。

2011年のマイコプラズマ肺炎の週毎の報告数は、1999年4月の発生動向調査開始以来の多い水準を保ったまま例年報告数が若干増加傾向となる時期を迎えつつある。今後ともマイコプラズマ肺炎の報告数の推移については慎重に経過観察していくべきであると同時に、これまで治療の第一選択薬とされていたマクロライド系抗菌薬に対する耐性株に関する情報にも注意していく必要がある。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(44週)	高知県(45週末累計) H23/1/3~H23/11/13
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									580 (0.12)	12,340 (257.08)
小児科	咽頭結膜熱					1		1 (0.03)	1 (0.03)	590 (0.19)	318 (10.60)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	11	5	5	2	24 (0.80)	27 (0.90)	4,136 (1.32)	1,934 (64.47)
	感染性胃腸炎	11	14	31	16	2	11	85 (2.83)	73 (2.43)	10,405 (3.32)	6,846 (228.20)
	水痘	1	5	12	5	1	3	27 (0.90)	38 (1.27)	3,860 (1.23)	1,641 (54.70)
	手足口病	9	1	8	1		9	28 (0.93)	29 (0.97)	3,609 (1.15)	3,246 (108.20)
	伝染性紅斑		5	6	3	1	8	23 (0.77)	29 (0.97)	782 (0.25)	466 (15.53)
	突発性発疹	1	1	8		1	4	15 (0.50)	12 (0.40)	1,777 (0.57)	642 (21.40)
	百日咳					1		1 (0.03)	5 (0.17)	82 (0.03)	40 (1.33)
	ヘルパンギーナ			3	2		5	10 (0.33)	8 (0.27)	376 (0.12)	935 (31.17)
	流行性耳下腺炎		4	13	2		14	33 (1.10)	19 (0.63)	2,102 (0.67)	415 (13.83)
	RSウイルス感染症		5	13				18 (0.60)	13 (0.43)	1,945 (0.62)	661 (22.03)
眼科	急性出血性結膜炎									57 (0.08)	1 (0.33)
	流行性角結膜炎			4				4 (1.33)	1 (0.33)	357 (0.53)	47 (15.67)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 (0.14)		5 (0.01)	5 (0.71)
	無菌性髄膜炎						1	1 (0.14)		32 (0.07)	23 (3.29)
	マイコプラズマ肺炎			1			1	2 (0.29)	3 (0.43)	531 (1.15)	119 (17.00)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2 (0.29)		14 (0.03)	11 (1.57)
計 (小児科定点当たり人数)	22 (11.00)	36 (5.14)	113 (9.55)	34 (11.33)	12 (6.00)	58 (11.20)	275 (8.83)				
前週 (小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	48 (6.86)	104 (9.09)	27 (9.00)	19 (9.50)	47 (9.40)		258 (8.47)	31,240	29,690 (828.55)	

定点当たり

第45週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(44週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.12
小児科	咽頭結膜熱					0.50		0.03	0.03	0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	1.00	1.67	2.50	0.40	0.80	0.90	1.32
	感染性胃腸炎	5.50	2.00	2.82	5.33	1.00	2.20	2.83	2.43	3.32
	水痘	0.50	0.71	1.09	1.67	0.50	0.60	0.90	1.27	1.23
	手足口病	4.50	0.14	0.73	0.33		1.80	0.93	0.97	1.15
	伝染性紅斑		0.71	0.55	1.00	0.50	1.60	0.77	0.97	0.25
	突発性発疹	0.50	0.14	0.73		0.50	0.80	0.50	0.40	0.57
	百日咳					0.50		0.03	0.17	0.03
	ヘルパンギーナ			0.27	0.67		1.00	0.33	0.27	0.12
	流行性耳下腺炎		0.57	1.18	0.67		2.80	1.10	0.63	0.67
	RSウイルス感染症		0.71	1.18				0.60	0.43	0.62
眼科	急性出血性結膜炎									0.08
	流行性角結膜炎			4.00				1.33	0.33	0.53
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.01
	無菌性髄膜炎						1.00	0.14		0.07
	マイコプラズマ肺炎			0.20			1.00	0.29	0.43	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.40				0.29		0.03
計 (小児科定点当たり人数)	11.00	5.14	9.55	11.33	6.00	11.20	8.83			
前週 (小児科定点当たり人数)	6.50	6.86	9.09	9.00	9.50	9.40		8.47		

2011年週報推移(定点当たり)

